

おれんじ通信

知って支える認知症

38



作業療法士の関わり

私たちの生活は、食事や着替え、家事、労働、趣味活動などの「作業」にあふれています。そうした「作業」を通じてリハビリを行うのが「作業療法」です。

「作業」を理解し、それに合わせた練習をします。例えば、着替えが難しくなった場合は、身体を通す場所がわかるように服に目印をつけたり、着替えの手順を工夫して反復練習を行います。

また、その人が今までの生活で得意だったことや好きなことを取り入れてリハビリを行うことで、「できること」を認識し、自尊心を回復する手助けをします。

認知症があっても、住み慣れた地域で自分らしい生活を続けられるように、作業療法士は認知症の方を支援します。

◇ おれんじ通信への意見をお寄せください。

◇ 地域包括ケア推進課 06(43309)3013、FAX 06(43309)3814